

# 本日のテーマ「ハマる！時代小説!!」

実施日：2023年10月22日

## 1 「殺しの四人」

池波正太郎／著 2001年 講談社 【SNイ】

関連資料「池波正太郎の江戸料理を食べる」

野崎洋光、重金敦之／著 2021年 朝日新聞出版 【596.2】

時代劇で「おとづら」とは、ちよとちから藤枝梅安でした。猪形拳が演じた最初のシリーズは、池波正太郎はお気に召さなかつらいです。  
どの話にも何が食べてる場面があつて、それがよいしょでした。著者も美食家だったようです。

## 2 「巷説百物語」

京極夏彦／著 2003年 角川書店 【SNヰ】

これが必殺仕事人のようなお話を。正攻法では裁けない悪人と妖怪のせり合いにて、破滅させられるのである。本当に妖怪が出てくるわけではなく、一味の市井人物、又市の人々や行商人に惑わされるのですか。「おんぎだらけである御行春為一」のセリフがかかる……。



## 3 「卵のふわふわ 八丁堀喰い物草紙・江戸前でもなし」

宇江佐真理／著 2007年 講談社 【SNウ】

偏食家の主人公のぶと、女性不信の夫、正一郎が「食事」を通して心の距離感を縮めていくお話を。変わった舅、忠右衛門が「すごくいいキャラ」とファンが「タタキ」…。食べ方ひとつ本質や食事の有り難さにふれ、良い意味で人間くさを感じる温かい作品です。

## 4 「雑の餌 料理人季蔵捕物控」

和田はづ子／著 2007年 角川春樹事務所 【SNワ】

料理人の季蔵が料理を通して江戸の表沙汰にでない問題を暴いていく捕物帳です。読んでいくだけでも腹が空いてくる調理工程の描写の細かさに加え、登場人物の関係性にも注目したいところ。  
45巻まで出ており、長樂めます。続巻中

時代小説にもジャンルがあります。

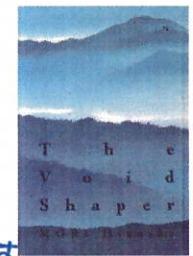
「剣豪小説」「捕物帳」「市井小説」「伝奇小説」「恋旅物」…など。  
チャンバラ ミステリー まちの人々くらし ファンタジー ハードボイルド。

みなさんは、どのジャンルがお好みですか？

## 5 「ヴォイド・シェイパー」

森博嗣／著 2011年 中央公論新社 【Nモ】

こんなタイトルであが「剣豪小説」なんです。  
しかも登場人物の名前はカタカナなんです。  
山で隔離されて育った少年ゼンが人々と出会い、本当の強さとは何か…答えを求めて旅をする成長物語です。  
やせたい時代背景がないので、時代小説初心者にもおすすめです。



## 6 「妖怪の子預かります」←第1部の1巻です。10巻あります。

廣嶋玲子／著 2016年 東京創元社 【SNヒ】

「妖怪の子、育てます」←第2部の1巻。続巻中。

廣嶋玲子／著 2021年 東京創元社 【SNヒ】

にオの少年弥助は盲目の按摩、千弥(其實は妖怪)と暮らしています。千弥の弥助に対する溺愛っぷりがほほえしい。1部のラストは泣けます。エンドが前の巻台のファンタジー。



## 7 「牛姫の嫁入り」

大山淳子／作 2016年 KADOKAWA 【Nオ】

伝説の美少女とうわさされていた重姫は、当主の澤慶に上り湊めたりした姫君だった…。姫の誘拐に失敗した美しい女忍び、コウは、命を助けてもらう代わりに、「1ヶ月で重姫を美しくしてみせる」と約束するが…。

## 8 「眩(くらら)」

朝井まかて／作 2016年 新潮社 【Nア】

関連資料「北斎娘・応為栄女集」久保田市洋／編著 2015年 藝華書院 【721.8】

実在の人物について書かれた歴史小説でもあります。

主人公のお栄は北斎の娘。仕方なく嫁ぐが、絵師の夫に「下手だ」と鼻で笑はれたせいで離婚です。

再び嫁ぐこともなく、絵の研究にとりくむ姿は、現代の女性のようです。江戸のレジスターともいわれる絵師の物語。

